

◆ 第12回 親ウシの健康を考えよう！

今回は、お産後に発症する代表的な病気を書いてみます。

①起立不能症

原因は不明で、乳熱や低カルシウム血症も含まれます。一般には、4時間以上起立できない状態が続いたウシについて言います。床擦れと血行障害を予防するため、広い所に十分寝わらを敷き、時々マッサージを行い、身体を動かし、自力で起立するよう努める。蹄病や、脱臼・骨折・筋肉や腱の断裂や激伸・神経損傷などが原因です。

②子宮脱

お産後、多くは8時間以内に後産(胎膜)が排出されます。その間、陣痛・努責が強かったり、ウシの後ろが高くなっていたりすると子宮・膣が陰唇部から外に出ることがあります。後産のほかに、厚い肉様の膜に握り拳ほどの胎盤(宮阜(きゅうふ))が付いているのが特徴(=写真1)で、わらやふんが付かないように下にビニールを敷き、表面が乾燥しないように注意(バケツに塩を一つかみほど加えた綺麗なぬるま湯を作り、時々掛ける)し、獣医師の指示を待つ。

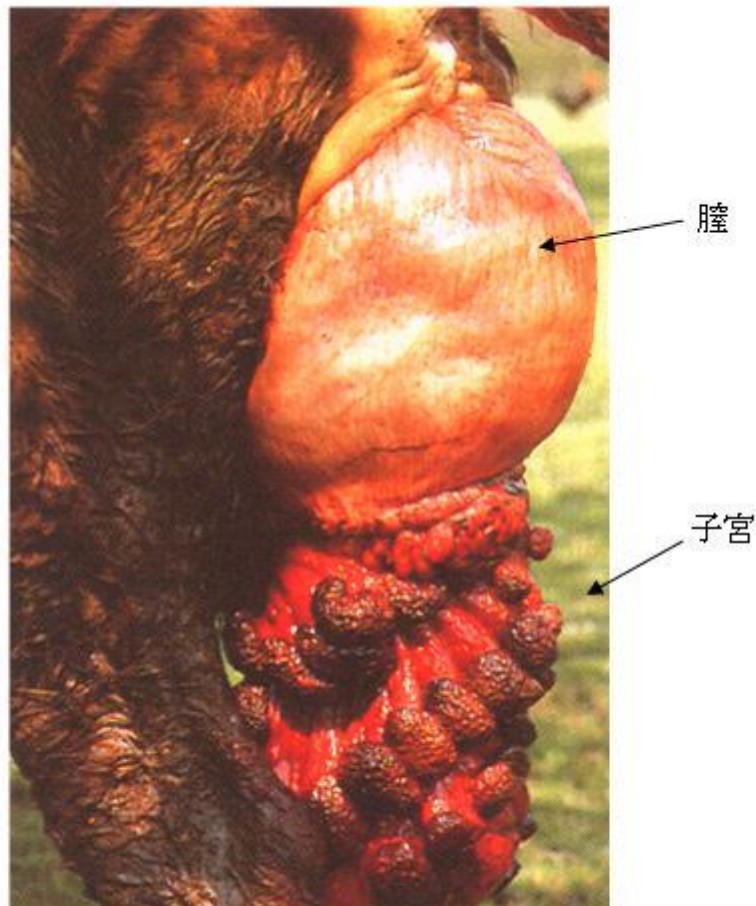


写真1：膣・子宮脱 (Bloweyら 1992。膣の粘膜に注意する。子宮小丘が、胎膜の例より硬く、充実感がある)

③胎盤停滯

お産後、24時間以上経過しても後産が排出されない状態で、子宮脱と見た目には同じですが、胎膜はひも状に垂れ下がり、4日から5日放置しても全身症状は見られません。処置については、獣医師により異なりますので相談しましょう(=写真2。外陰部から出ている部分は切り取り、抗生物質を子宮に入れ、10日目頃に子宮洗浄を行なう。放置して4日目頃に手で取り除く。あるいは注射をして経過を観察するなど)。



写真2：後産停滯（胎盤停滯。其田ら1986。胎膜が、ヒモ状に外陰部から垂れ下がる。子宮脱との違いは、肉の板のような感じはない。）

④産褥熱(さんじょくねつ)・悪露(おろ)停滯症

お産後、2日から3日の間で発症し、42度の高熱となる事もあり、息遣いは荒く、食欲・反芻・元気はなく、生殖器からの悪露は粘稠性がなくなり、悪臭を帯びる。細菌の種類によっては、人に感染する事もあるので獣医師の指示を待つ。